

令和5年度

まちづくり懇談会実施結果報告書

(城山地区)

宇都宮市総合政策部広報広聴課

<p>令和5年度 第4回 まちづくり懇談会《城山地区》実施結果報告書</p>
--

この実施結果報告書は、まちづくり懇談会《城山地区》における発言の要旨をまとめたものです。

- 1 開催日時 令和5年8月8日（火）午後6時30分～午後8時00分
- 2 開催場所 城山地区市民センター
- 3 参加者数 85人（市出席者除く）
- 4 市出席者 市長，総合政策部長，広報官，地域まちづくり担当副参事，城山地区市民センター所長，道路管理課長，広報広聴課長

5 懇談内容

- (1) 地域代表あいさつ 城山地区コミュニティ協議会 会長
- (2) 市長あいさつ
- (3) 地域代表意見

No.	テ ー マ	所管課
1	城山地区の活性化について	① 技術監理課，道路管理課，道路建設課 ② 観光交流課 ③ 観光交流課，文化課
2	観光資源の価値向上と自治会の加入促進について	① ア. 技術監理課，景観みどり課，道路建設課 イ. 観光交流課，都市魅力創造課 ② みんなでまちづくり課
3	高齢者を支える仕組みづくりについて	① 高齢福祉課 ② 交通政策課

(4) 自由討議

No.	要 望	所管課
1	城山地区の道路事情～ジャパンカップ開催地のイメージ向上を目指して～	道路建設課
2	空地・空き家をなくして地域を活性化し，安全なまちにするためには	生活安心課

3	観光客増加に伴う生活環境整備について	観光交流課, 生活安心課
---	--------------------	--------------

(5) 来賓あいさつ

市議会議員 山崎 昌子 氏

市議会議員 柴田 賢司 氏

市議会議員 成島 隆裕 氏

(5) 市長謝辞

■地域代表意見 1 (要旨)

テーマ	城山地区の活性化について
-----	--------------

城山地区の活性化について、意見を述べさせていただきます。

- ① まず第一点が、大谷街道拡幅の早期実現についてである。

大谷街道の拡幅については、桜通り交差点から宇都宮環状線まで概ね完了し、仮称大谷スマートインターチェンジへの取り付け道路に係る部分は、明保通り交差点から宇都宮環状線までの拡幅工事が現在進行中である。また、姿川に掛かる大谷橋周辺は、橋の架け替え工事に伴い整備が進んでいる。

中抜けとなっていた明保通り交差点から大谷橋までの部分約900メートルについては、県において現在道路拡幅に向けた測量が行われ、詳細設計に入る事となっているが、この区間は公図と現地が相違している公図混乱箇所が多いという課題があると聞いている。この課題を解決するには市の協力が不可欠である。

昨年7月、市と県に対して、要望書を提出しお願いした所であるが、城山地区においての積年の願いとなっているので、今回も要望するものである。

加えて大谷橋から大谷資料館に向かう市道632、635号線についても、拡幅整備を早期に実現していただき、大谷街道の全面拡幅をお願いする。

今後、スマートインターチェンジが開通すれば、高速道路を利用しての来訪者が増加し、自動車の混雑が予想される場所である。そして、LRTの大谷地区までの延伸を願う住民として、大谷街道の全面拡幅は必要不可欠な事であるので、よろしくお願いする。

- ② 二番目に、大谷観光周遊拠点施設での地元団体等の優遇措置についてである。

大谷観光周遊拠点施設「大谷コネクト」については、今年11月に全面オープンする予定となっている。大谷地区のシンボルの1つである旧大谷公会堂も移築されて新たに公開・運営がなされる。

管理運営は、指定管理者制度を取ると聞いているが、地元の自治会をはじめ各種目的団体が旧大谷公会堂を始めとした拠点施設を利用したイベント等を行う場合には、優先的な利用とともに、有料の場合は減免や免除の特例など、地元の優遇措置を設けていただく事をお願いする。

また、「大谷コネクト」にはビジターセンターが設置されるが、そこでのPRについては大谷地区ばかりでなく、戸室山、多気山、古賀志山、森林公園などの自然や歴史、そして農産業の特産物など、城山地区の観光資源全体をPRする施設としての運営をお願いする。

- ③ そして三つ目である。

城山地区の観光資源の広域的活用についてである。

これまで大谷は、大谷石文化を中心に観光地として発展してきた。さらに大谷石文化が日本遺産として認定され、石の里大谷として広く知られるようになり、観光客の来訪も増加し、年間120万人を目標に出来る観光地となった。これは地元関係者の努力と基盤整備など市行政の大きな支援があつてのこととと思っている。

大谷の大谷石文化は全国的な知名度を持つようになったが、城山地区には、まだまだ多くの観光資源がある。特に西部地区には、多気山、古賀志山、森林公園の自然、城山西小学校の孝子桜、多気城跡、多気山持宝院などの歴史文化、ジャパンカップロードレースのコースなど、多岐にわたって存在している。

11月にオープンする「大谷コネクト」を拠点として、これらを周遊する観光コースを整備し、大谷石文化観光を発展させ、より豊かにする方策が必要と考えるので、検討をお願いする。

さらに、歴史的視点からは、関東における山城としては、小田原城に次ぐ規模があつたとされる戦国時代の山城「多気城」跡がある。曲輪や堀なども発見されて歴史的価値も高まった。また、東側中腹には「多気のお不動さん」として親しまれている822年創建の多気山持宝院がある。

これらが大谷の大谷寺を含めた歴史巡りの観光施設として整備して、より広く多角的な視点を持つことが、観光客の多様性に応えるために、今後必要な対策と考える。

その一つとして、多気山の頂上「御殿平」に多気城としての館を設置して、関東平野を一望し、晴れた日は富士山も望める施設として整備されることを提言する。

宇都宮城との歴史的一体性も生まれ、宇都宮のPRにはより良いものになると思う。

城山地区においても、平成19年から、「よみがえれ大谷」と銘打って、毎年100人規模で多気山の美化活動に取り組み、多気山の荒廃にブレーキをかけてはいるが、曲輪や堀の保全までは手が届かない状況である。多気山の歴史的価値を見直して、再度必要な整備をお願いする。

回 答	所管課：①技術監理課， 道路管理課， 道路建設課 ②観光交流課 ③観光交流課， 文化課
------------	--

【市長】

大谷地域の振興をはじめ、城山地区のまちづくりにお力をいただき感謝申

し上げる。

- ① はじめに「大谷街道拡幅の早期実現について」であるが、県道宇都宮今市線及び県道大谷観音線、通称大谷街道については、宇都宮駅から本市の観光拠点大谷地区を結ぶ重要な幹線道路である。現在、栃木県において、大谷橋前後の区間を大谷町南工区として、歩道整備や交差点改良に取り組んでいるところである。

御指摘の明保通り交差部から大谷橋までの部分約900メートルの区間については、法務局に備え付けられている地図と現況の土地利用が著しく相違する地区、いわゆる公図混乱地区となっている。道路の拡幅に向けた沿線地区の公図混乱への対応にあたり、県が主体になって動くが、県が円滑に道路整備を進められるよう市も協力していく。

次に「大谷橋から大谷資料館に向かう、市道632・635号線の整備について」であるが、市道632・635号線については、地域住民の生活を支える重要な幹線道路である。また大谷観光周遊拠点施設「大谷コネク」や大谷寺、大谷資料館などの観光施設を結ぶ観光客の主要な動線でもあることから、歩道がない大谷元観音付近から大谷景観公園付近において、連続的な両側歩道の整備、車道の拡幅、姿川に架かる観音橋の掛け替え及びラウンドアバウト形式の交差点の整備について、令和6年度の供用開始を目指し、現在、一体的に進めている。

引き続き、権利者や地域の皆様方の御理解と御協力をいただきながら、各種工事を進めていく。

- ② 次に、「大谷コネク」での地域団体等の優遇措置であるが、「大谷コネク」については、6月に大谷商工観光協力会が中心となり共同事業体を指定管理者として指定させていただいた。

11月の開業に向け、いま準備を進めているところである。

「大谷コネク」においては、観光誘客や地域活性化に向け、旧大谷公会堂を活用したイベント開催や多目的スペースでの地域製品のPRなどに、城山地区コミュニティ協議会をはじめとした地域の皆様と一体となって取り組み、滞在や交流の促進・賑わいの創出を図ることとしており、地域の皆様に活用していただきやすいよう、使用料の一部を減免することとしている。

こうしたことから、地域のイベント等を実施する際は、「大谷コネク」を中心とした地域の更なる賑わい創出に、一体となって取り組んでいくので、御相談をいただきたい。

また、旧大谷公会堂に隣接するビジターセンターにおいて大谷地域のみならず、宇都宮市内全域の観光情報をはじめ、古賀志山や森林公園など周辺の観光情報についても発信することとしており、城山地区全体の周遊促進や来訪者へのおもてなしを図るため、地域の皆様と一体となって城山地区全体の魅力的な観光資源についても、積極的に情報発信をおこなっていく。

- ③ 次に「城山地区の観光資源の広域的活用」であるが、御意見いただいたとおり、大谷地域では、年間120万人の観光入込客数を目指しているところである。その実現に向けては、魅力的な地域資源を活用した観光コンテンツの創出や、観光施設の充実に向けて取り組むとともに、地域に点在する観光資源を結び付け、観光客が周遊しやすい環境を整備することが重要であると認識している。

宇都宮市では「第3次観光振興プラン」に基づき、観光地大谷の更なる魅力を創出するため、森林公園やろまんちっく村などと連携した北西部エリアの周遊促進に向け、お得に周遊できるタクシーの運行や、「大谷・多気・古賀志エリア」の周遊マップの作成など、観光資源の広域での活用に取り組んでいる。

また、大谷地域では、奇岩群などの景観も楽しみながら、地域内を快適に周遊していただくため、グリーンスローモビリティの周遊サービスと観光施設への入場料、また飲食店などで使用できるクーポンをセットにした「ワンデイパスポート」の販売事業を行っている。

今後は、新たな観光・周遊の発着点となる「大谷コネクト」を中心として、これまで取り組んできた周遊促進策や北西部周遊マップなどの更なる周知を図るとともに、城山地区の歴史や文化・自然・食・アクティビティなどの多様な観光資源を広域的に活用して、来訪者の目的や滞在時間にあわせたきめ細かな観光案内を行うことにより、更なる周遊・滞在の充実に取り組んでいく。

「多気城跡」については、日本遺産の構成文化財の一つとなっている。

中世の宇都宮を知るうえで、欠かすことができない重要な城跡であると認識していることから、史跡の保存と活用に向けた調査に取り組んできた。

一方、更なる調査については、複雑な地形の広大な山城跡であり、私有地であること、また地権者が多数いることなどから、多くの時間を要する事を御理解いただきたい。

そのような中でも、多気城跡の来訪者に、城の構造や歴史を知ってもらえるよう、本丸跡や市営駐車場・登山道入り口などに解説看板及び案内誘導板を設置し、周知啓発に努めている。

多気山頂上付近の整備については、まずは、中世当時の城跡の状況について、現況把握や歴史資料の収集などを更に進め、現在策定中の「文化財保存活用地域計画」の中で、史実に基づいた多気城跡の保存の在り方について検討をしていく。

■地域代表意見 2（要旨）

テーマ	観光資源の価値向上と自治会の加入促進について
-----	------------------------

観光資源の価値の向上と自治会の加入促進についてであるが、

①ア. まず1つ目として、観光資源の価値向上の為の整備について伺う。

城山地区は、古賀志山・多気山などの豊かな自然、日本遺産の大谷石文化やジャパンカップサイクルロードレースなど、多くの観光資源に恵まれた地域である。

こうした城山地区の観光資源の価値をより高めるため、2つの提案がある。

1つ目は、大谷景観整備についてである。

大谷観光の目玉は、なんとといっても大谷石の岩山の景観であり、初めて訪れる方は、突然現れる岩山を見上げて驚かれると思う。

しかしながら、1つ残念に感じることは、こうした素晴らしい景観を見上げると、雑然とした電線や電柱が必ず目に入るということである。大谷を訪れる皆さんに、普段は味わえない非日常の体験をしてもらい、また来たいと思ってもらうには、まず目に入る景観をより磨き上げることが必要ではないかと感じている。

そのために、観光の玄関口となる11月オープンの「大谷コネクト」から、大谷寺・景観公園・大谷資料館周辺の電線を地中化すると良いと考える。

また、他の観光地では、景観への配慮と地元資源の利用促進のため、ガードレールに地元の木材を使用する事例などがあるので、こうした事例を参考に、白いガードレールや歩道の柵などを景観にマッチした大谷石を活用したものにすると、大谷石のPRや、より質の高い景観づくりにつながると思うが、いかがか。

イ. 2つ目は、森林公園の整備についてである。

森林公園を舞台に開催されるジャパンカップサイクルロードレースは、いよいよ今年は30年目を迎える。毎年、世界の第一線で活躍するトップ選手が繰り広げる熱戦をひと目見ようと、日本全国のみならず海外からも観戦客が訪れる。

城山地区でも多くのボランティアスタッフが参加し、また、ウエルカムフラワー事業としてコース沿道にコスモスを飾り付けるなど、地元開催を盛り上げようと頑張っている。

このような中、毎回感じる事は、観客数の割には森林公園周辺に駐車場が少なく、スタート・ゴール地点の森林公園駐車場に設けられる観戦スペースが非常に狭いことである。「自転車のまち宇都宮」が誇る本物のロード

レースをより多くの人に楽しんでもらうため、世界大会に相応しい会場づくりが可能で、なおかつ、市民の日常的なスポーツやレクリエーションなども幅広く利用できる「多目的広場」を公園駐車場の付近に整備してはどうかと考えるが、いかがか。

以上2点を提案する。もし、すでに整備の計画や構想などがあるのであれば、可能な範囲で結構である。実施時期や具体的な内容を教えていただきたい。

② 次に自治会の加入促進についてである。

少子高齢化が進む中、城山地区でも、自治会の加入世帯数は年々減少しており、このままでは、そう遠くない将来、地域の活動が困難になると危惧しているところである。

このため城山地区連合自治会では、将来の自治会の担い手を増やすため、少しでも多くの方に自治会活動に興味を持ってもらえるよう、宇都宮市自治会連合会の「魅力ある自治会づくり支援事業補助金」を活用し、11月に「大谷コネクト」で、自治会加入促進事業を実施する予定である。

事業の内容は、城山地区にある宇都宮短期大学の先生や学生の若い力を借りて、音楽のミニコンサートや自治会会員の優待制度「宮PASS（ミヤパス）」を提示した方はお菓子の無料配布などのイベントを実施するものであり、若い方や子育て世代の皆様にも、楽しみながら自治会活動を知ってもらい、加入促進につながればと思っている。

こうした活動は、今後も企画していきたいと思うが、加入世帯の増加は自治会の独自の努力では限界がある。

自治会加入のきっかけづくりとして、是非、市においても「宮PASS」の認知度向上のため、「広報うつのみや」などでのPR強化のほか、若い世代や単身世帯などにも、自治会活動に気軽に参加してもらえるような仕掛け作りなど、自治会加入促進の取組支援を検討していただきたいと思うがいかがか。

回 答	所管課：① ア. 技術監理課, 景観みどり課, 道路建設課 イ. 観光交流課, 都市魅力創造課 ② みんなでまちづくり課
------------	---

【市長】

①ア. 観光資源の価値向上のための整備についてのうち、1つ目の「大谷の景観整備について」であるが、大谷地域においては、豊かな自然と大谷石文化が織りなす大谷ならではの景観を守り、育むため、地域の皆様と「大谷

地区景観づくり推進協議会」を立ち上げ、「大谷地区景観づくり指針」を策定するなど、地域の皆様と行政が連携しながら、景観形成に取り組んでいるところである。

また、道路等の公共施設は、良好な景観形成を進めるうえで、周辺の景観資源と調和できるよう、統一かつ洗練された地域を印象付ける色彩やデザインとすることが重要と認識している。

そのため、大谷観光周遊拠点施設「大谷コネクト」や大谷公園、市道632・635号線などにおいて、統一性のあるデザインにより景観に配慮する必要があることから、これまで地域の皆様や景観形成に精通した有識者である景観アドバイザーの意見を踏まえ、効果的に大谷石を活用し、周辺環境に調和したデザインを取り入れ整備することとした。

そのような中、電線の地中化については、令和4年3月に「無電柱化推進計画」を策定し、景観形成・景観振興の観点から、特に無電柱化の必要性の高い路線として大谷コネクトや大谷寺、大谷資料館などの観光施設を結ぶ観光客の主要な動線である市道632・635号線の無電柱化を推進する路線として位置付けたところである。今後、早期に無電柱化に着手できるよう取り組んでいく。

また、景観にマッチした大谷石の活用であるが、大谷コネクトの整備にあたっては、旧大谷公会堂へのアプローチ通路の舗装や、足元を照らすフットライトに、大谷石を活用して整備を進めていく予定であり、今後は歩道の舗装などの安全性等に影響のない箇所にも、大谷石を活用するほか、ガードレールや転落防止柵、街路灯の色彩を統一するなど、引き続き来訪者が楽しみながら周遊できるよう、大谷地域の周辺環境に配慮した魅力ある良好な景観づくりに努めていく。

イ. 2つ目の「森林公園の整備について」であるが、ジャパンカップサイクルロードレースが本年、30回大会を迎えることができた。開催地である城山地区の皆様方の多大な御理解と御協力によるもので、この場を借りて、深く感謝を申し上げる。

ジャパンカップは、毎年8万人を超える方々が観戦に訪れている。多くの方々に快適にレース観戦を楽しんでいただけるよう、会場周辺に約3,000台分の駐車場や約1,500台分の駐輪場を確保しているほか、JR宇都宮駅からのシャトルバスの運行、森林公園駐車場へのスタンド席の設置、コース沿いの民有地を活用した観戦エリアを設けるなど、観戦環境の向上に向けて取り組んできたところである。今後もジャパンカップを更に発展させながら、大会の歴史を40回、50回と積み重ねていくうえでは、観戦環境の更なる向上が、重要な取り組みの1つであると考えている。

森林公園については、令和6年4月から、豊かな自然を活かした魅力向上のための再整備を行う予定である。再整備にあたっては、民間事業者の

豊富なアイデアやノウハウを最大限に活用し、ジャパンカップ開催地としての強みを活かした魅力向上や、来場者の増加に対応できる環境の整備に向け、駐車場の拡張や多目的広場の整備について検討していく。

- ② 次に「自治会の加入促進について」であるが、自治会は、地域に住む人々が協力し合い、親睦と交流を通じて連帯感の醸成を図る地域コミュニティを支える基盤である。安全で安心なまちづくりを作っていくことに、欠かすことができない団体であり、自治会がなくなってしまうと、おそらくまちづくりは前に進めることはできない。

そして、それぞれの地域が、金太郎飴のように、同じ様な顔ではなく、それぞれが地域の特性や住む人の考え、思い、歴史そういうものを作って、それぞれ独自に作り上げていくカラーの異なるまちになっていくのが理想だと思っている。それには、我々行政がトップダウンで行っては、全く良いまちは出来ない。やはり地域の皆さんと一体となって、進めていく、それが自治会の役割だと思うし、自治会でなくては出来ないものだと思う。

そういう中において、各自治会においては、若年世帯の加入促進に向け、防犯・防災、環境美化などの自治会活動を分かりやすく紹介したパンフレットを作成し、若年世帯の新規加入に繋がった事例をはじめ、高齢者の退会防止に向け、役員等の免除や会費の減額などの対応を図っている事例など、各自治会が地域住民の声に寄り添いながら、加入促進や退会防止に取り組まれており、このような取り組みにより得られた成果を全市に広く情報提供するため、事例集として取りまとめ、各自治会の取り組みの参考にしている。

また、本市としても、今年度より新たに創設した、宇都宮市から東京圏に通勤・通学する方の新幹線の定期券の購入費を月最大1万円補助する「東京圏通勤・通学支援補助金」をはじめ、居住誘導地区等の対象区域で要件を満たす住宅取得費を最大85万円補助する「マイホーム取得支援事業補助金」などにおいては、自治会の加入を補助の条件としている。自治会に入っていないと、この補助は使えない、もらえないということになる。こうした自治会加入者への優位性を確保することにより、自治会加入の後押しに努めている。

御意見いただいた「宮PASS」であるが、自治会加入促進の効果的な取り組みとして、令和3年5月の事業開始から、これまで宇都宮市自治会連合会と連携しながら、「広報うつのみや」での特集ページをはじめ、ラジオや新聞、テレビなどの様々な媒体を通じた周知を行ってきたところであり、現在のサービス提供施設は、スーパーマーケットやショッピングモールなどの132施設となっている。

また、今年度は、新たに、市民活動団体のビッグイベントである「フェスタmy うつのみや」において、130の出店者のうち52者が、「宮PA

SS」の優待サービスとして、記念品のプレゼントや飲食物の割引販売などに御協力をいただいております。自治会加入のメリットである「宮PASS」の認知度向上に向けて、更なる取り組みが必要であると考えています。

今後とも、「広報うつのみや」により「宮PASS」のPRを行っていくほか、新たに、市公式LINE「教えてミヤリー」などのSNSを活用した周知強化に努めていくとともに、「宮PASS」の優待サービスの充実を図るため、宇都宮市自治会連合会と連携しながら、サービス提供施設の充実に向けて取り組んでいく。

次に、若い世代や単身世帯などの自治会活動参加に向けた仕掛けづくりについては、本市では、若者などがまちづくり活動に参加するきっかけとなるよう、活動に参加した人にポイントを付与する「まちづくり活動応援事業」を実施している。

この事業により、自治会は「防犯パトロール」や「清掃活動」「地域のイベント」などの活動者を広く募集することができ、事業を通じて応募した活動者は、活動によって得たポイントをクオカードや図書カード、ろまんちっく村の温泉施設の回数券などに交換できる特典があるので、城山地区においても、本年11月に「大谷コネクト」において企画しているイベントでも、多くの若者の参加を促進するための手法として、ぜひこれを活用いただきたい。

今後も、自治会加入促進に向け、広報紙やインターネットなどのさまざまな媒体を活用した幅広い情報発信を行うとともに、地域に身近な城山地区市民センターが地域の実情に合った取り組みを支援させていただくので、御相談をいただければと思う。

■地域代表意見 3（要旨）

テーマ	高齢者を支える仕組みづくりについて
-----	-------------------

城山地区においては、地域における「まちづくりの指針」として、平成27年に「城山地区ビジョン」を策定し、城山地区コミュニティ協議会内に、「安全・安心・教育」「健康・福祉」「地域コミュニティ」「観光・地域産業」の4つの部会を設置し、まちづくりに関する様々な取り組みを進めている所である。

そうした中で、「健康・福祉部会」として考える高齢者が抱える課題について伺う。

- ① 1点目、買物弱者への支援についてである。

城山地区では、誰もが住み慣れた地域で安心して自立した生活を送れるよう、地域での支え合い体制の推進に向け、平成31年に、第2層協議体である「城山地区ホッとするまち協議体」を立ち上げ現在「城山地区支えあい活動」の実施に向け、準備しているところである。

この活動は、城山地区の全自治会を対象として行った「困りごとアンケート」の結果を基に、まずは声の多かった「除草作業、不用品・粗大ごみの処分」などについて、高齢者や障がい者を対象に実施していく方針である。

こうした地域の支え合いが、少しでも進めば、高齢者が安心して生活していける第一歩になると思う反面、すべての困りごとを地域の支え合いだけでは解決できないのではないかと思っている。

中でも、難しいと思うのが、食品や日用品の買い物が難しい高齢者、いわゆる「買物弱者」への支援である。

城山地区にはスーパーマーケットが少なく、食料品を売る小売店も少ないため、日常の買い物機会が十分でない状況にあると思う。最近は宅配サービスも増えているが、やはり「自分の目で見て買いたい」という声が多い。

地域内交通を利用し、スーパーで買い物をすることもできるが、広い店内を自由に歩ける人ばかりではなく、自分で見て買いたいというニーズに応えるために、企業や地域が持つ資源とマッチングさせることは難しいようである。

そこで、軽トラックなどで行う移動販売が効果的ではないかと思っているところである。しかし残念ながら、城山地区の場合、東北自動車道の西側には来ていないのが現状である。

移動販売は、自分で見て買えるメリットはもちろんのこと、そこに集まる人同士でコミュニケーションが生まれ、地域の活性化に繋がったという事例があるようである。また、個別訪問や施設訪問により、身体的に買い物が難しい人のニーズにも応えられるほか、高齢者の見守り、更には中小小売店の活性化支援も期待できる。

今後、高齢化社会が進めば、買物弱者も増えていく。地域の支援・介護サービス等は進んでいくが、市からの企業への働きかけなどにより、移動販売の促進など、地域で出来る限り自立して生活をしたいと考える高齢者を支える仕組みが出来ればよいと考える。

- ② 2番目に、高齢者の病院への移動についてであるが、城山地区では、地域内交通「城山孝子号」を利用し、病院や買い物等に行かれる方が増えており、城山地区が鹿沼市との市境に位置するため、鹿沼市にも目的施設が在り、非常に恵まれていると思う。

しかし、総合診療が可能で、栃木県の中心的な病院である「栃木医療センター」は、城山地区から比較的近い位置にありながら、「城山孝子号」の目的施設になっていない為、受診の際に車を運転する高齢者も多く、運転免許返納を進めるのも難しいようである。

地域内交通は、地区内の施設を目的施設とするのが基本であることは承知しているが、病院は様々な専門分野があり、どの地区内にも全てが揃っている状況ではなく、身近で頼りになる「かかりつけ医」が自分の地区にいるとは限らない。バスやタクシーとの料金の兼ね合いもあると思うので、一定の料金負担はやむを得ないと思うが、地域内交通における目的施設となる病院の認定も含め、誰もが身近な所で、等しく医療を受けられるよう、地域を超えた仕組み作りが出来ればと考えるので、よろしく願います。以上である。

回 答

所管課：① 高齢福祉課
② 交通政策課

【市長】

- ① 先ず、買物弱者に対する支援であるが、移動手段を持たない高齢者などの在宅生活を支援するため、地域内交通の利用促進を図るとともに、介護保険の訪問介護サービスや社会福祉協議会が実施するファミリーケアサービスにおいて、食材等の買い物を支援しているところである。

このような中、スーパーマーケットやコンビニエンスストアなどの店舗を有する一部の民間事業者では、地域貢献活動の一環として、移動販売車が定期的に高齢者などの自宅や地域の集会所などに出向き、生鮮食品やお弁当、日用雑貨などを販売する取組が行われており、買物支援だけでなく高齢者の見守りにもつながり、高齢者などの自立した生活を支える好例となっている。

今後も、市職員が第2層協議体に参加する中で、移動販売などの社会資源を活用した好事例の情報提供を行うとともに、地域の実情にふさわしい仕組みについて、地域の皆様と話し合いながら、必要に応じて、スーパーマーケットをはじめとした民間事業者等に対して働きかけを行うなど、高齢者などの生活支援の充実に向け、一緒になって取り組んでいく。

② 次に高齢者の病院の移動についてであるが、本市においては、誰もが移動しやすいまちの実現に向けて、LRT、バス、地域内交通などが適切な役割分担のもと、効果的・効率的に連携した階層性のある公共交通ネットワークの構築に取り組んでいる。御意見頂いたとおり、誰もが身近なところで、必要な医療を受けられるなど、いつまでも住み慣れた地域で安心して暮らし続けられることは、「ネットワーク型コンパクトシティ」の形成において、重要であると認識している。

このような中、地域内交通については、既存の公共交通を補完し、地域における日常的な移動を支える手段として、路線バス事業者やタクシー事業者と連携しながら、既存公共交通との適切な役割分担を図ることを前提に導入を進めており、その運行範囲については、既存公共交通の衰退を招かぬ範囲としている。すべて地域内交通が担ってしまうと、バス路線はいらなくなってしまい、鉄道も不要ということになってしまう。また、タクシー事業者も無用ということになってしまうので、原則として地区内とし、地区内にない施設が在る場合には、地区外への目的施設の設定や鉄道・路線バスと接続する事で対応をしているところである。

「城山孝子号」の目的施設に「栃木医療センター」を追加することについては、バス事業者と協議のうえ、平成30年3月から「栃木医療センター」を経由するバスが発着している「関東自動車 細谷車庫」バス停を目的施設に追加し、地域内交通と路線バスを乗り継ぐことで、「栃木医療センター」にアクセスできるようにしたところである。また、本市では令和4年9月に地域内交通と路線バスの乗継割引制度を導入し、運賃負担の軽減にも取り組んでいるところである。地域内交通と路線バスを乗り継いで御利用いただくことに、御理解と御協力をいただければと思う。

引き続き、城山地区の皆様が、より便利に公共交通を利用いただけるよう、地域運営組織と連携しながら、「城山孝子号」の更なる利便性向上に向けて、取り組んでいく。

■自由討議（要旨）

発言 1	城山地区の道路事情～ジャパンカップ開催地のイメージ向上を目指して～
------	-----------------------------------

私たち宇都宮市立城山中学校生徒が発表する。

テーマは、「城山地区の道路事情」、副題は「ジャパンカップ開催地のイメージ向上を目指して」である。【スライドを活用しながら発表】

皆さん、御存じのように、毎年宇都宮市では、ジャパンカップサイクルロードレースが行われ、城山地区福岡町にある宇都宮市森林公園が、周回コースになっている。今年は10月15日、日曜日に行われる。私たち城山中生徒もボランティアとして応援に行きたいと思っている。

私たち城山中学校の生徒は、第3学年を中心に、郷土の特色や魅力を活かしながら魅力あるまちづくりを取り組む方策について考え、地域の特色や魅力を再確認し、地域とのかかわりの中で自己の生き方を考え、自分に出来ることを見つけ、実践していくことを身につけるために、総合的な学習の時間を行っている。その中の地域探索活動、ふるさと学習では、このジャパンカップを取り上げ、このように現地に行ったりして調べ学習した。

更に、ジャパンカップを運営しているおひとり、宇都宮市 経済部都市魅力創造課魅力創造グループの職員に来校いただき、宇都宮市がジャパンカップ開催において、どのように努力を重ね運営していくかをお聞きした。選手はもちろん、観戦する人々が、安全に過ごせるために、事前に細かい部分まで予想して、対応出来るよう準備していくとのことである。大変勉強になった。昨年のジャパンカップはコロナ禍の影響で3年ぶりの開催となり、10月14日金曜日から10月16日日曜日に行われ、3日間の総来場者数は12万9800人の観戦者数だったそうである。

このように、宇都宮市はジャパンカップを中心に、自転車のまちとして有名で、宇都宮市のホームページにも、宇都宮自転車マップ、宇都宮広域自転車マップがある。これは、宇都宮広域自転車マップの一部で、大谷街道やしろやま中通りがジャパンカップコースへ行くまでの途中のコース、道筋としてあらわされている。

その大谷街道であるが、スライドをご覧ください。このように道幅も狭く、自転車専用レーンもない。また、大型トラックが通過する際は、特に危険である。

一部の白線や通学路注意などの文字も消えかかっている。このように、大谷街道は自転車にとって危険な道路である。

こちらは、しろやま中通りである。こちらにも自転車専用レーンがなく、車にはさまれ、とても危険である。

こちらは大谷街道と明保通りの交差点から少し南に入って、学校に向かう通学路である。多くの城山中の生徒は、大谷街道を通らず、この道を使っている。車1台しか通れないぐらい狭い道路である。こちら、先ほどに続く道である。

このように私たち中学生の通学路として自転車で使う道、ジャパンカップ開催の場所である森林公園まで行く道が、あまりよくない。

ぜひ、このように城山地区も、中学生の自転車通学路だけでなく、サイクルロードの観光客の方も安心してこられるように、自転車専用レーンや自転車専用道路を作っていただきたい。よろしく願います。以上で発表を終わりにする。

回 答	所管課：道路建設課
------------	------------------

【市長】

総合学習の時間で事前に勉強していただき感謝申し上げます。また、ジャパンカップの今年の開催にも、皆さんボランティアとして参加をしていただけたということで、心強く思っている。

城山地区ならではの中学生の意見・発表ということで、本当に有難く思っており、次の世代がこうして頑張っていたいいること、全地区にこうしたことが波及出来ればと思う。

お二人から御意見いただいたが、宇都宮市では「自転車のまち」を掲げている。平成15年度から約20年にわたって、自転車が安全に通行できるよう、自転車交通量が多い路線などにおいて、自転車専用通行帯や矢羽根型の路面表示等の整備を、国や県と連携しながら進めているところである。市道についてはこれまでに約65.7km整備したところである。

特に交通規制がかかり、自動車等は原則通行できない「自転車専用通行帯」については、これまでに35.4kmを整備してきたところであり、規制延長については、日本一となっている。

城山中学校の生徒の皆さんをはじめ、地元の方々や観光客などが利用する大谷街道については、様々な人が安全・安心に通行できるよう、現在、県と市が協力して道路の拡幅と自転車専用通行帯の整備を着実に進めているところである。

今後とも、国や県と連携しながら、自転車走行空間の整備に取り組むことで、中学生をはじめ、観光客の皆様など、誰もが安全・安心に、さらには快適に自転車で移動が出来る走行環境を整えていく。

発言 2 空地・空き家をなくして地域を活性化し、安全なまちにするためには

私たち城山中学校生徒のテーマは、「空き地・空き家をなくして地域を活性化し、安全なまちにするためには」である。【スライドを活用しながら発表】

城山中学校の学区である城山地区には、多くの歴史、産業の施設がある。この地区には毎年、多くの観光客が来ていただいている。これは、宇都宮市に来ていただいた観光客の来訪時の観光内容・来訪目的を聞いたものである。ホームページの宇都宮市観光動態調査から調べた。青が大谷資料館・大谷寺・平和観音などの石の郷・大谷地区に行ったという観光客の数である。オレンジがジャパンカップサイクルロードレースなどのスポーツイベントやプロスポーツ観戦をした方たち、グレーが古賀志山・宇都宮アルプス・羽黒山などでハイキング・自然散策をしたという方々である。棒グラフは、その年のサンプル数、調べた方の総数である。コロナ禍で令和元年からサンプル数が少し減ったが、観光客はほぼ変わらず、昨年からは、それぞれのグラフが上がっていることから、城山地区への観光客数が年々多くなっていることが分かる。

このような、城山、大谷の地区であるのに、現在、空き家、空き地が多く見られる。この地図の丸は、私達がこの辺りに空き家や空き地があったと感じた場所である。

こちらと同じである。

このような空き家、空き地をこのように有効活用出来ないだろうか。

また、これは自由討議の発言1でも出てきた大谷街道であるが、大谷街道も夕方には、このように暗くなる。街灯も、ポイント的には明るいですが、全体的には暗い。これは、更に暗くなってしまう城山西小学区、文挾へ向かう街道である。自転車の帰り道の方、左には歩道も街灯もなく、とても危険である。

こちらは、しろやま中通りである。同じ場所の夕方である。このように、しろやま中通りも暗い。

こちらは、大谷街道から入る戸室山南側の通学路である。夕方になると、この道は街灯も少なく、とても危険である。このように、建物や街灯が少ないことにより、道が暗い場所がある。私の家の近くも、このように暗い道がある。防犯のため、街灯の少ない道や住宅地の明かりを増やす対策や、空き地・空き家をなくして、有効活用できる対策をぜひ進めて頂きたい。以上で発表を終わりにする。

【市長】

中学生が空き家を考える、空き地を考えていただけるということで、初めて御意見をいただいた。皆様の世代を考えると、今から対応していかなくてはならない。人口減少・世帯数の減少になって、これからますます空き家等が増えていく状況になっていく。市では市民の皆さんが、安全で安心して暮らせるまちづくりを推進するため、空き家対策や防犯対策などが重要と認識している。そこで地域の皆様の御協力をいただきながら、民間事業者や大学、NPO法人等と連携して、空き家や空き地の活用促進や所有者への助言や指導の実施による管理不全な状態の解消をはじめ、空き家等を発生させないための啓発活動や地域の防犯対策の活動などに取り組んでいるところである。

そのような中、「空き家等の活用促進」については、空き家等を活用した地域活性化を促進するため、「空き家を使ってほしい」という所有者の協力のもと、行政や建物・不動産に関係する団体、大学などが参画する官民連携組織である「宇都宮空き家会議」というものを作り、そこと連携しながら、空き家等の活用支援に取り組んでいる。

具体的には、東峰西自治会において、地域住民と大学生が連携して、学生などが自ら空き家の改修に取り組み、自治会集会所として整備した「とみくらみんなのリビング」をはじめ、川俣町桜ヶ丘自治会においては、地域住民が荒れ果てた空き地の雑草の刈り取りなどを行って、花壇などを設置し、地域の交流スペースとして活用している事例もある。

また、令和3年度には、空き家等を活用したいと考えている学生等の若者を対象に、実際に空き家を学び舎として利用する「空き家の学校」を開校し、この学校で学んだことを実践する機会として、大学生が中心となって、空き家を活用した地域住民との限定イベント「あきやのだがしや」を開催したところ、イベント当日は、約200名の方が来場するなど、大変盛況であった。

今後、これらの地域活性化に資する空き家等の活用可能性を広く市民等に情報発信するとともに、城山・大谷地区においても、空き家や空き地の活用が図られるよう、地域や所有者の皆様の声に耳を傾けながら、空き家等の活用支援に取り組んでいく。

また、安全なまちづくりを実現するためには、地域の皆様と連携して、夜間の明るい環境づくりや、事故や犯罪の防止に取り組んでいくことが大変重要であることから、市では、自治会における通学路などへの防犯灯や防犯カメラの設置費用や電気料金に対して補助を行っているほか、それぞれの家庭の玄関灯や門灯などを点灯し、まちを明るくする「一戸一灯運動」の取り組みへの協力を呼び掛けているので、皆様にも運動の御協力をお願いしたい。

安全・安心なまちづくりを進めていくため、引き続き、地域で必要となる防犯灯の設置などを推進していく。

最後に、次世代を担う中学生が地域の活性化のために考え、発信していただいたこと、本当に感謝申し上げます。これからも自分で考え、そして様々なまちづくりというものを思い描いていただきたいと思います。そして、思ったこと、疑問に感じたこと、どんなことでも市にどんどんぶつけてください。

発言 3 観光客増加に伴う生活環境整備について

現在、大谷地区では様々な工事が行われている。観光の発着点となる大谷観光周遊拠点施設の「大谷コネクト」ビジターセンターの建築のほか、大谷街道大谷橋と交差点付近の改良工事、景観公園に向かう観音橋の架け替え工事、一級河川姿川の改修工事、更には大谷寺付近のラウンドアバウト方式の交差点整備が、今後行われる予定である。また、主要スポットを巡るグリーンスローモビリティや、モビリティと観光施設の入場料がセットになったワンデイパスポートなどの発売、ハード・ソフトの両面から観光客が周遊しやすいよう、整備が進んでいる。こうした整備と共に、魅力的な飲食店・物産展が増えてきた。

これも宇都宮市が大谷地区を市の観光拠点として位置づけ、観光客の増加に力を入れていることのあらわれであり、昔の「輝いていた頃の大谷」を知る地元住民としては、新たなにぎわいが創出される光景を目の当たりにして、大変うれしく思っている。輝いていた頃の大谷を、佐藤市長も御存じと思うが、私が生まれ育ったのは、この大谷町の食堂が、私の実家である。今、私の二女の旦那がオーナーシェフとして、お店を経営している。もともとは、私の父がガソリンスタンドとして操業していたが、設備の老朽化により泣く泣く閉店した。そんな土地で幼少期から過ごしている私は、輝いていた頃の大谷を知る一人で、昭和40年代から50年代、石材業が盛んで大変にぎわっていた頃である。朝早くから、大谷石を積んだトラックが夕方まで行き交い、毎日のように観光客を乗せた大型バスが、何台も大谷寺、平和観音、大谷ヘルスセンターへ行っていた。また、大谷一帯には、商店街、旅館、ドライブイン、ヘルスセンターなどがあり、生活必需品は地元商店街でほぼ買えたような状況であった。なお特筆すべきは、昭和40年代市町村の人口当たり外車保有台数が全国1位になったこともあった。そんな時代であった。また違った昭和の賑わいだったと思う。

そして現在、観光客も年々増加傾向にあり、コロナ禍前に戻りつつあるが、一方では観光客の増加に伴い「車で来る観光客のマナーが悪くなっている」という声が周囲からも聞こえてくることもある。

ナビを使って、近道を検索し、住宅街にスピードを出して進入してきたり、対向車が来るとすれ違いの出来ない狭い道を、マイクロバスなどが進入してくるのを時折見かける。

特にカネホン採石場から東へ向かう市道626号線は急に道幅が狭くなり、すれ違いが難しい道路が続くにもかかわらず、スピードを出す車がある。また、大谷寺から東へ向かう市道640号線は、道幅が狭くカーブも多いうえに、途中にサッカー場の入口があるため、マイクロバスの通行や選手関係者の車ですれ違いが出来ず、立ち往生することもある。

こうした状況に地域住民が巻き込まれるケースが、問題であると思う。

大谷地区に観光客が来てくれるのは、とても喜ばしいことではあるが、オーバーツーリズムという言葉があるように、大谷地区にも観光地ならではの地域

住民への弊害が、今後多くなるかもしれない。

また、大谷地区に駐車場が少ないのも大変気掛かりである。イベントを開催するたび、交通渋滞を引き起こすので、何か妙案があればと思っている。

最後に、交通マナーや道路案内等の看板設置、大谷地区内の道案内用のパンフレット、スマホ等への情報発信など、観光の先進地の対策事例などを参考にしながら、観光客にもやさしいまち、地域住民が安全で安心な生活環境に繋がるよう地域と共に考えて、対策を講じていただくようお願いして、私の提言を終わる。

回 答	所管課：観光交流課，生活安心課
------------	------------------------

【市長】

私も幼稚園の頃、祖母が入っていた婦人会の会合がヘルスセンターであって、そこまで送ってきたのを覚えている。中には入れてもらえなかったが、大変な賑わいで、人びとが溢れていたような、そんな印象を覚えている。

今、御指摘があった通り、お客さんが来るとすべてが良しではなく、弊害も出てくると思う。今、オリオン通りをはじめ、中心市街地がすごい人である。通行客が減り、猫しか歩いていない、シャッターが閉まっているなど悪口をずっと言われていたが、ようやく回復をしてきて、逆に今では人が多すぎて、地元の方々から苦情が来るような、そういう事になってしまった。

そうならないように、観光客の方々安全に快適に、地域を来訪できる、周遊・滞在できる、また、もちろん地域に住んでいる皆様方が、安全・安心に生活が持続できる、そういうことが必要だと考えている。

そのため本年3月に、学識経験者や交通事業者・地元団体等で構成する「宇都宮市大谷地域観光交通対策推進会議」を設立し、交通混雑の緩和や周遊性向上などに関する意見交換や情報共有を行いながら、「年間120万人の観光入込客数」の実現と観光客の増加に対応できる交通環境の向上に向けた検討を行っている。

このような中、今年のゴールデンウィークには、推進会議でいただいた御意見を踏まえ、観光施設等との連携による交通状況に関する情報発信や駐車場入出庫の際の交通誘導、パークアンドバスライドなどの対策を実施して、混雑の緩和や安全の確保が図られたところである。

また、観光客の方に、車以外の手段でゆっくり地域を周遊していただくため、毎週土曜日、日曜日を中心に運行しているグリーンスローモビリティやワンデイパスポートの取り組みにより、混雑の緩和のみならず、地域全体の周遊促進や滞在時間延伸などを図っており、利用者からは「車以外で周遊できて便利」、「大谷の魅力を満喫できた」などの高い評価をいただいている。

また、地元自治会や地域の交通安全団体へ「スピード注意」の看板を配布し、

注意喚起が必要な道路上に掲示していただくなど、地域の安全・安心の取り組みについても、支援を行っており、今後、更なる安全対策に取り組む際には、御相談いただきたい。

引き続き、地域や関係機関との意見交換や先進地事例などの情報共有を行いながら、地域の皆様の安全・安心を確保するため、観光客の方の交通マナーの向上、そして安全かつ快適なルートを周遊していただけるよう、より効果的な情報発信、誘導方法などについて検討を進めるとともに、観光客向けの案内看板の充実を図り、「行ってみたい、過ごしてみたい、いつまでも暮らし続けたい」という、大谷の実現に取り組んでいく。